

## 令和5年度江北町総合教育会議 会議録

- 1 日 時 令和5年11月29日（水）午後3時25分から午後5時00分まで
- 2 場 所 公民館2階講座室
- 3 出席者 下表のとおり

### 【構成員】

番号	役 職	氏 名
1	町長	山田 恭輔
2	教育長	吉田 功
3	教育長職務代理者	浪瀬 隆一
4	教育委員	重松 亜須香
5	教育委員	溝口 泰弘
6	教育委員	田中 薫

### 【こども教育課】

番号	役 職	氏 名
1	課長	坂元 弘睦
2	課長代理	峯 清美
3	総務企画係長	岸川 庸介
4	学校教育係長	諸富 浄子
5	主任指導主事	小宮 広明

### 【総務政策課（事務局）】

番号	役 職	氏 名
1	課長	山中 博代
2	課長代理	小野 政己
3	係長	淵上 和剛

### 4 議題

- (1) いじめ問題
- (2) 不登校
- (3) 子どもの居場所づくり
- (4) 部活の地域移行

---

## 午後3時25分 開会

### ○山田町長（挨拶）

令和五年の江北町の総合教育会議ということで、開催させていただきました。昨年度は、たぶん3月ぎりぎりだったんじゃないかなというふうに思いますけど、これから町では、来年度の予算編成であるとか、来年度いろんな事業計画を立てる時期でもあるものですから、今の時期に開催させていただくことで、そういったことにもいろんなものが反映できるんじゃないかなという思いもありまして、少し早めに設定をさせていただきました。それともう一つはですね、最近、これ江北町ではないんですけど、いろいろ子供たちであるとか、教育に関する話題が新聞等でも報道される機会が幾つかありましたものですから、私自身も問題意識を持っており、早めにそうしたことについても情報共有といたしましうか、意見交換をさせていただければなど。そういう思いで開催させていただきましたので、皆さま方から忌憚ないご意見いただければと思っております。

### ○事務局：総務政策課（小野課長代理）

それでは早速議題に入りたいと思います。進行については総務政策課長が行われます。よろしくお願いします。

### ○総務政策課（山中課長）

みなさんこんにちは。そしたら議題の方に入らせていただきたいと思いますけれども、先ほど町長の方からございましたけど、今回、県内県外を問わずですね、新聞、テレビ等で大きく報道されている四つの事項についてですね、議題にさせて頂いております。町長の方からお願いします。

### ○山田町長

総合教育会議は町長が開催することになってるものですから、少し自分の方で議論を進めさせていただきたいなと思います。1番から今回4番まで、議題としてあげてますけど、これに加えて、特に江北町では、義務教育学校についてもですね、議会も含めて、町の大きな課題というふうに思っております。実は今週金曜日に議会の方で特別委員会がですね、設置されました。今回、義務教育学校に関しては、集中審議をされるということでもあります。また、今週末は、ワークショップということで、町民の皆さんに義務教育学校に限らずですけどね。今の意識といたしましうかね。また将来にどんな展望を持っておられるのかなと思うようなことで、町民の皆さんの声も聞いていただいた方がいいんじゃないかということで、そうしたことも計画していただいて。でも今日はあえてちょっと義務教育学校についてはですね、議題としては上げていませんでした。で、予定しておりますのがお手元の4つなんですけど、（1）から（3）は、特に関係する事項じゃないかなという風に思ってます。これについては、1から3までは少しまとめて議論ができればなというふうに思っています。で、その議論に先立ってなんですけど、今回の議題は私のほうで設定させていただきましたが、お手元の資料にですね、新聞記事が後ろにありますよね。で、見出しでいくと、小中の不登校最多の29万9千人と、なんか30万人にならないようにしてかどうかはちょっと分かりませんがね。で、それは大きく報道されたところでもあります。で、これとあわせてですね。次のページの今度、県内の高校いじめ、これも当然、全国でもそうなのですが、佐賀県についても同じような状況だということで、県内不登校いじめ、過去最多ということになってるん

ですよね。で、これ県の教育委員会のコメントだったと思いますけど、ありますね。その県内不登校いじめ過去最多という記事のですね、下から4番目の右のところに県教委はということで、赤線引いてありますね。ありますよね。記事のこれをですね。私、テレビの中で同じようなコメント聞いたんですけど、県教委は、いじめを積極的に発見して対応する考え方が浸透し、認知件数の増加に繋がって書いてあるんです。で、これが非常に私個人的に違和感を感じてですね。要は、そのいじめの実態は、それほど変わってないんだけど、関係者になるべくというか、積極的にあげようということで数が増えましたっていうのは本当なんだろうかってですね。だからなんかそういう、こう分析っていうのが本当に正しいことなのかどうなのか分からなくて、やはりもっとその実態に合ったというか、実際増えているのかどうかとかいうことをやっぱりきちんと本当は向き合う必要があるんじゃないかなと思ってですね。で、この記事そのものよりも、このコメントが実は、私今回議題にやっぱりせんばいかんなどと思ったことだったんですね。で、もちろん全国、県の動きはそれとして、じゃあ町はどうなんだろうかっていうことで、よもや町の町教委もいじめを積極的に発見して対応する考え方が浸透し、認知件数の数が増加したなんていう、見解をお持ちなのかどうか、実態どうなのかっていうことをやっぱりお聞きしたいという思いがありました。で、もちろん、いじめと不登校は違いますし、かつてのようにいじめが原因で不登校ということでは、たぶん、今の時代必ずしもそうばかりではないっていうのも自分なりにわかっているところでありまして。ただというか、いずれにしても、やっぱりその学校にまつわる、子供たちの生きづらさとか通いづらさとか、それに伴ってやっぱり学びの機会が失われるというようなことは、やはり町にとって大きな問題だというふうに思ったもんですから。これに合わせて議論ができればなと思ったところです。前もご紹介したかもしれませんが、2016年に教育機会確保法という法律ができて、必ずしも学校だけが学ぶ場所ではないということで、仮に学校に行けないというか行かないというか。で、あったとしても、子供たちが学ぶ機会というのは自治体として、きちんとやっぱ設定せんばいかんという実は結構大きな法律だと私は思ってるんですけどね。ただ、実はこの法律自体も、なかなかこう教育関係者含めて浸透がどこまでされているのか、ちょっとよくわからないし。町の方では、例えばフリースクール等奨学金などですね、他に先駆けて行っている実績もあるんですけど、やっぱりそういうことをやっていかなば、それこそ今年、町制71年目ですけど、江北町の100周年はないなという思いでいるところでありまして。で、どうしても教育委員会の所管事項というのは、私からすれば一つこう壁隔てたようなところがあって、予算とかいうことを除けば、基本的には権限外なもんだからですね。もうこれは、とにかく教育委員会の方でしっかりやっていただくしかないし、私はこういう場を通じてだけではないんですけど、教育委員会にしっかりやっていただくことしかできない問題なんですね。ぜひ、そこをお願いしたいなというふうに思っているところでありまして、ちょっとこう言っちゃなんですけど、最近議会の中でも結構教育委員会について、いろんなご質問いただいて、その答弁の内容であるとか、これまでの対応についても議会の皆さんの方からもですね、もう少しどうにかならぬかということのを正直言われたりして。ご存知だと思いますけどね、だから、そうしたら少し焦りというかなんて言うかな、正直少し苛立ちもありますけどね、ということを持っているもんですから、私の気持ちでいけば、子供たちをお預けしている側面が正直そんな感覚であるもんですから、もう少ししっかりやってほしいなっていうのは。あまり上から言ってるつもりはないんですけど、どうしても権限からはずれて。なので、ぜひそこは一緒に、江北町の未来のためにも、なによりも子供たちのためにも良い環境作りができればなというふうに思っています。で、その(3)の子どもの居場所というのもですよ、これが何を指すかとか、いろいろあると思うんですけど、例えば、その先ほどあった学校に向かってもらうためということでいけば、名前が正直、違和感がありますけど、適応指導教室。残念ながら県内でもないところは、あんまりないんですよ。うちと大町だけない。20市町のうち、ないところは江北・大町のみなんです。これも実はもう数年来の課題でもう、そういうところもどういう風にしていただいているのかなとか、必ずしもそれだけじゃなくて、こどもの居場所

ていうのがですね、大きな何て言うかな、基盤にもなってるんですね。まあ、そこも含めて議論ができればなという風に思いましたので、よかったら1番から3番までは少しまとめて議論したいと思います。その題材として事務局から説明いただけるとですかね。

○**こども教育課（坂元課長）**

議題（1）から（3）について説明。

○**山田町長**

ちょっとすみません、いくつかお尋ねしますが、えっと認知と覚知とどがん違うとですか。

○**こども教育課（坂元課長）**

覚知が先で、子供達から訴えがあった時点で、その後、先生とか対象の子供達から話を聞いて、これはいじめの案件だということ、あげるってなった場合が認知っていうふうになります。

○**山田町長**

ていうことは、逆に言うんですよ、覚知と認知にこれだけのギャップがあるということは、子供たちの訴えの中で、実際、これがいじめだねっていう風にしてるのっていうのは、ここで言うと、令和二年と比べれば、100件ぐらいはそうじゃないってということですか？

○**こども教育課（坂元課長）**

そういうことになります。

○**山田町長**

それはどんなケースですかね？

○**吉田教育長**

覚知の場合はですね。こういうところでちょっと話を聞いたけれども、どうなのかっていうのが、覚知で、じゃあ、それを当事者呼んで確認をしましょうということで、やっぱりそういうことだったのかな、ということが認知であげてる数字です。だからちょっと100という数字のそのすべてが、そのいじめの認知になるのかどうか、ちょっとはっきりとは断定できないのじゃないかなと思います。

○**山田町長**

それならですよ、ぜひお願いしたいのはその覚知と認知のギャップをですよ、少し分析してもらいたいと思います。というのは、さっき県教委のコメントがありましたよね、県のね、これだけ見るとなんかそのなんていうかな？ちよっところ、総数を操作までしてないでしょうけど、いじめ実態は変わってません、みたいなことだと思ったんですけど、逆にその覚知とするかですね、認知とするかっていうのはこんなに差が出るということですよ。もしかすると県教委が言っておられるのは、本来は覚知レベルってのが段階だけど、これは認知件数だよねってやっぱりいじめだよねっていうふうにしているの、これだけ増えたっていうんだったら逆に県教育委員会が一定やっていることは、もしかすると正しいのかもしらんなと思うし、で、それなのについていうふうになるんですけど、江北町は数が変わってないようになってるんで。仮に今までこれは覚知で止めとったけども、これやっぱり認知だよねって意味で、その覚知っていうのがベースにあって、認知を積極的にやっぱり認知せんばいかんさということで、もし増えた

っていうんだったら、うちが逆に増えてないのはちょっと違いますよね。だから、そこはこれだけではちょっとわからないんでね、そこはやっぱり分析をしてもらいたいなというのが一つとまた後でお願いしますけど。それとほら、不登校の現状の令和五年度の数字はないんですか。

#### ○小宮主任指導主事

あります。手元の資料により説明。

#### ○山田町長

わかるとるなら書いてほしい。さっき、いじめのとは、令和5年9月末までにしてもらってましたね。もちろん、30日でまだ途中なんでっていうことかも知れませんが、せっかく直近の数字があるんだったら教えてもらった方がよいなというふうに思うんですけどね。仮に単純に半分ではないと思うんですけどね。既にちょっとどんな言い方ができるのか、わからないですけど、半年でも超えていますよねって数字もあつたりしますからね。そういうのは、やっぱりちゃんとだしたほうがいいかなと。よかつたらすみません。ちょっといじめ、不登校、あと居場所についても教育委員会では定期的に情報共有、意見交換されておられるかもしれませんが、よかつたらそれぞれ皆さんお考えとか。

#### ○田中教育委員

令和二年度の以前の数字が、なんかすごいあの低かったんですね、で、ちゃんと覚知されてますかっていうことで、もともとは、先生方の努力でそこまで、そんなに多くなかったんですよっていうことだったと思うんですけど、ちょっとした子供の訴え、なんとか君たたきんさつとか、その理由も聞かずにとりあえずその訴えられたことを全部あげて、その数字にあがったんじゃないかなって思ってたんです。で、その後が認知で17とか20とかずっとその二桁台になってると思うんですけど、ちょっと、そこらへんがですね、この123っていうのは、ちょっとした訴えもちゃんと聞き取りましようねっていうことで、123になってたんじゃないかなったんですかね？

#### ○山田町長

たぶん、この前はもっと数字が少なかったですよ。で、令和二年度の数字を教えてもらったときに、なんでここが突然増えたんですかっていう時に、今おっしゃった様にいや、なんか県の調査の仕方なのかちょっとわからんですけど、覚知件数ということで、ただその後、また今度認知件数になったんですね。あの調査の方法が。なので、これ多分、覚知件数の中で、まあ、やっぱりいじめだよってというのが認知件数に。だから、覚知件数の中から認知案件が出てくるっていうことじゃないですか、ですよ。なので、覚知がこれだけ多いからですよ、で、さっきあつたように認知件数としてですね、やっぱりきちんとまあ、とらえようと言ったことで増えたっていうんだったら、覚知件数はこれだけあるわけだから、多分ベースがね、ベースがこれだけあるとすれば、やはりそれを認知件数にするのか、なっていないですかね、認知するのかどうかっていうところで結構ちがってる気がしませんかねと。だから、どんなケースだったらっていうことは、やっぱり分析をした方が、いいよなってちょっと思ったところで。さっき私が言ったのは。せっかくご発言いただきましたから、合わせて、なんかそのいじめ・不登校、こどもの居場所とかで、もし、田中委員さんのお考えあれば。

#### ○田中教育委員

不登校に関してはそのコロナで家にいるのが当たり前のような、そういう習慣とか、子供たちの生活様

式もですけど、大人も携帯とかネットを夜使うような習慣、そういうのもう子供が普通になってきているからですね、眠そうにしている子供たちがけっこういるんですけど、何でそがん夜遅そうまで起きとったと？て聞いたら、保護者さんが寝た後にネットとか youtube 見たりとかしたってコソって話すんですけど、そういうことの影響がすごく不登校、昼夜逆転してしまうんで。そういう生活の仕方が一番の不登校の原因、学校が嫌だとか、そういうことじゃなくて。朝起きれない昼間に起きていられないという、そういう状況が不登校を増やしてるんじゃないかなというふうに思ってます。だから、もうちょっと、そういうタブレットとか、携帯の使い方をもっと、低減できるような、そういう仕組みっていうか、ルールを作っていた方が子どもの体を守れるし、学校へ行くっていうことの生活のリズムを作ることに對してのですね、ちゃんとした生活ができるのが一番だと思うので。そういうところをちょっと親もですね、子供もいっしょにそういうちゃんとした生活できるような感じにしていけたら一番いいと思うんですけど、なかなか今の時代ですね、難しいというか、大人自体がそれにならされてきてしまっているんで、そこらへんですね。どういう風に大人になって、そういう習慣がついてしまったら、誰が止めようもないというところがあるからですね。こどもにすごい影響があるということを大人もちゃんと認識して欲しいなあと思っています。それをどういう風にしていけばいいかっていうのが難しい。

### ○山田町長

だから、さっきの多様化とか、個性化とか言いますが、その今、田中委員さんがおっしゃったようなことを、それでもやっぱり直して行くほうで捉えていくのか、もちろん、いや、もうこれ時代の流れけんね、仕方なくさんって言って何もしないことにはならないと思うんですけど、ただ、やっぱりその大きな時代の流れ中、やっぱり止められないところもあるんですよ。やっぱりあの若者の主張大会とか聞いてると、もう今までとはやっぱりその主張する内容が違ってきてるっていうのは、やはりその情報なんかもう大人も子供も関係なく、同じ情報にさらされているというか、出てるので、ある意味、非常にこう取り上げる話題とか、考え方が我々の世代から見て大人びてると思ったりするんですけど、もうたぶんそう。今フラットにね。昔だったら大人を通じてというか、大人が許したものとかね、そういうものでないと今も一定そういうのもありはしますけど、そう言いながらもこうね、やっぱり直接、スマホで持っておけば基本こうアクセス制限でもしなければ、一定の情報取れる訳ですからね。

### ○田中教育委員

でも情報がですね。新聞とかあのテレビとか見ないから、自分が見たいものとかが偏ってるんですよ。ぜんぜん話が通じないというか。もうネットの中の世界だけで生きているので、なんかそれを知らないとか会話が全然できない。

### ○山田町長

そのネットにはそのキュレーション機能とかですね、あって、自分が見ると、それにこの人はこういうのに興味があるんだっていうことになると、実際、その表示する情報はそれに傾いた情報ばかりしか見ないから、だんだん狭いところに、閉ざされたところに入って行くっていう、傾向があるからですね。だから、その単純に端末とかいうことだけから得る情報じゃなくて、どっかでやはりそういう客観的な視点とか、持ってやらないと駄目だなと思ってですね。

### ○田中教育委員

そういうのをやっぱりこう知らせるのも学校がすごく大事だなというふうには思っています。学校に

行かないで、学校自体も怖い所と思っている子は学校ってということだけでもう行けないと思うんですね。だから学校の中にその居場所をつくるのをどうなのかなと思うし、ちょっと離れたところで落ち着いて過ごせる自分なりに、自分の将来を考えられるところがあればいいなあと思います。

### ○山田町長

なので、なんかその自分が適応指導教室という名前が好きじゃなくてですね。とにかく学校に適応させるためのなんか矯正施設みたいな感じに聞こえるし、さっき言ったことそうじゃなくて、必ずしもそこで過ごすことの先に学校にまた通うということだけがあるわけじゃなくて、やっぱり集団で生活、何か同じ行動をとることそのものが、やっぱりこう苦手な子どもさんもいるんだろうと思うんですよね。その時に学校イコール学校に行かないから、イコール勉強もしきれないということじゃなくて。で、さっきのその子どもの居場所なんかはですよ。もう本当になんか、ある意味すぐ県内ではほとんどあるっていうふうに言われて、非常にこう、もやもやするんですけど、この少し教育の事務局の人たちと話した時には、がん言っちゃわるかですが、もう最後発なんですよね。今から作るにしても、それだったら今あるとばそのまま真似るよりは今お話しいただいたようなどうせ最後のあたりなら先頭の人たちのとば追いかけるよりはですね。やっぱり今にふさわしい形の子どもの居場所っていうことを考えた方が良くないと思うし、うちと同じ B&G 施設があるみやき町さんなんかは、その第 3 の居場所みたいな言い方で、いろんな施設をされたりしてるんですよ。県がなんかも追いつき、追い越せだけじゃなくて、今までできていなかったのはね。本当にあれですけど。やっぱり今、どんな場所がふさわしいのかなとかね。で、それをですね。たぶん、教育委員会がもしくは教育委員会の事務局がなんとか造りますってことってするわけじゃなくて、今回義務教育学校もあえて、いろんな親御さんたちのお話聞かせてもらったりすること、ワールドカフェ。だから、やっぱりそういうことがしんさった方が良くないかなと思って。もし仮に教育委員会として子どもの居場所が必要だというふうに思ってるんですよ。どんな形の子どもの居場所がいいのかっていうことであれば、もうそのよその町で今すでにあるもうそのままじゃなくて、やっぱりやったほうがいいんじゃないかなと。ひとまずよかですか。すみません。重松委員さん、この不登校いじめとかで考えることがあればいいですか？

### ○重松教育委員

今、田中さんがおっしゃっておられるところで、自分が思うところはですね、自分が個人的にちょっと見た youtube なのか、家についてたテレビかだったと思うんですけど、それこそ不登校で学校に行かず、フリースクールに行って、一般企業に就職して今生計を立てておられる方と別の方で不登校で、その人は結局、大学受験をして勉強して、今、教育関係の仕事についておられる方と色々な方がこういう議論されているような番組をちょっと見たときに、江北町にもフリースクールもないんですけど、なんかこう選べる、こう本人、そのちょっと話が色々飛んで申し訳ないですけど、その不登校でもフリースクールに行って一般企業に就職された方はずっとゲームしてる、フリースクールに行っても勉強してなかった、でもそれで良かったと本人おっしゃられてるんですね。で、今就職も出来て、今そのテレビに出られるぐらいになられてるんですけど、もう一方の方は学校行かれなくて。その自分で勉強して大学に入ってっていうのは非常につらかった。で、ほかのなんか教育関係の専門の方は、親が結局、その子供が学校に行けないことに非常に悩んで苦しんでおられる。だから、その親を助けてあげたいみたいなんですけど、その選択肢が色々ないと、結局本人に合う選択肢をどう選ぶかみたいなのところにいきついているのかなと思って、私、個人的な考えを言い出すとこう偏ってしまうので、学校に通えない子供たちでも、そのフリースクールを選べるとか、学校に戻れるような、教育支援センター的な勉強もできるような、そういうところがいいのか、なんかこう。どういう形に江北町がその不登校だったり、学校に通えない子に対して支援が

できるように考えるべきかなと思ったときに、こう選べるフリースクール。今あの助成金を出して通えるようなあれはありますが、教育支援センターみたいなのは江北町にないから、ビックルームで今対応してますけど、やっぱり学校に行けない子もいるし、行きたいけれども家庭環境、昼夜逆転して心的原因でいけない子もいるし、なんかこう一つにこう、こうしたらいいという判断が非常に難しい時代なのかなと思うので、なんかこう個別に対応ができるように選べる選択肢があるといいなとちょっと思っているところです。はい、ちょっと話が色々飛んで申し訳ないですけど。ありがとうございます。

### ○山田町長

重松委員さんが言われたことは、自分もそう思ってるんですね。ていうのはなんていうかな、教育機会確保法もう一回、みんなでちゃんと確認したほうがいいかなっていうふうに思ってた、やっぱり、いろんな意味で今多様化、個性化してですよ。やっぱりその学校という器が変わらなければですね。変わっていないとすれば、やはり、その中の受け入れられる範囲がやっぱりもう子供たちのいろんなこう多様化しているからですね。そうなった時に、今おっしゃったように、学校という、うちの学校ですよ、だけじゃない選択肢が色々ある、今はなんか、例えば教育委員会とか、小学校中学校のことをやるところが教育委員会みたいな感じですけど、多分そういう小さな意味の教育委員会じゃなくてですよ。やっぱり子供たちの教育とかどうあるべきかっていうことでいけばさっき言われたように、多分情報を色々持ってですね。確かにその、気軽に通えるスクールが近くにはないかもしれませんが、例えばこんな学校もあります、こんなこともできます。で、皆さんと一緒にほら、東彼杵に行きましたよね。例えばこんな学校もあるんですよとか、あとは前もこの角川、あのN高かな、通信の今中学生の多分できてるんだと思います。例えば、こういう学び方もありますよとかですね。やっぱりそういう本当は情報を持って、そしてええとまあ、もちろん自分でもね。親御さんたちの引き出しはできるかもしれませんが、そこはやっぱり我々ある意味プロなわけだから。でそういうふうにくわしく網羅をして、こんなことがあって言うことがやっぱりできないといけないなというふうに思ってた。だから、今までは100のうち99%ぐらい学校でよかったのがですよ。多分70とかで、後の30とかぐらい。やっぱりその学校じゃないっていうか。自分のとこの地元のねって言うように。多分なっていくんだらうなあっていう思いがあります。なので、やっぱりそういう情報収集なんてしようと思ったらできるし、で、やっぱりそういう機能を持つておく必要があるんじゃないかなっておっしゃるところは、もちろん、そういう意味でおっしゃったとすれば、自分はそう思いますね。

### ○重松教育委員

ちょっと話がまたちょっと変わってくるかもしれませんが、結局、親がそういう提供ができてる子とできてない子の違いっていうか、家庭環境の違いもあると思うんですね、で、不登校の原因がいじめってというのは、江北町では非常に少ないと思っていて。いじめが原因で不登校になってるわけじゃないとするならば、じゃあ何が原因なのかってなった時に、一番身近な所の家庭環境っていうところが一番の原因の大きいところかなっていうと、町からのスクールソーシャルワーカーと一緒に、他のところですけど、毎月訪問していただいているご家庭もあったりするのでもうちょっと家庭に踏み込んだところで考えると。親御さんたちにそういう選択肢があることをこう自分が子ども教育できないっていうか、子どもに構ってあげられなかったら、例えばそのフリースクールを選ぶのも親が選んでるわけじゃなくて、なんかこう江北町の教育委員会からこういう選択肢がありますよっていうことをもちろん親にもですけど、子供たち自身に直接教えてあげられるような場があるならば、なんかもっと選択肢が広がるのかなと。一日ずっとゲームして家において。こう、そこから抜けだせないっていう事よりかはフリースクールなり、どこか違うところに行って、何かのきっかけがあって、学校に通えるようになるのか、違うところに通えるよう



になるのかなんか、そういう情報提供がその親だけじゃなくて、子供と直接できるようになると、またちょっと一歩進んだ違う形の、なんかこう踏み込んだ、あれができるのかなと思うので、学校側とか先生だけで家庭に入っているのは非常に厳しいところがあるので、そこでいうと町からの民生委員さんだったりなんか福祉の方からだったり、なんか一緒に連携してこう個別にご案内できることがあればいいかなと。

### ○山田町長

なるほどですね。うん、なんかこう、学校の側からだけ、学校に関わる人は学校側からなんでこんとやとかいうことなんだと思うんですけど。イコール教育委員会の視点とはまたちょっと違ってしかるべきなんだと思うんです。そういう意味では、だから、全て学校が前提で教育委員会も考えるんじゃないで、ですね。学校は当然、教育委員会。で、もちろん大きな施設というか、組織であるわけですけど、やっぱりもう一つ大きなところで、やっぱり子供たちに関わるというか、まあ親御さんも含めてね、せんばいかんとやなかかなと思いますし、もしかするとその場所は別として、やっぱりこの年齢の時にはこういうことが身につかないかとか、特に義務教育だからですねとか、やっぱりその社会性をやっぱりどうやって育むかとか、だからもしかするとさっき言んさったごと、フリースクールとか行って、何て言うのかな、ゲームばかりしてても、その中でももしかしたら社会性とか育てたかもしれないし、あそこの東彼杵のごと、別にカリキュラムがあるわけじゃないけど、トータルで、その義務教育の過程をクリアしているような、工夫をしてあるからですね。だからやっぱりそのあくまでも学校ていうのは組織でいうと現場なわけですよ。だからもう必ずしもその、みんな現場感覚だけではなくて、やはり少し大きな、それが多分、教育行政と教育政策って言われてるものだと思いますし、さっきの単純にフリースクールの補助金に作りましていうだけじゃなくてですね、やっぱりその今検討されているっていうものがですよ、やっぱり、そういうものを担うようなものであるならば、わざわざセンターという名前でもなくてもいいかもしれないし、そういう機能がやっぱり町には備わってかんばいかんとじゃなかかなって思います。ひとまずよかですか。浪瀬委員さん、いじめ・不登校、子供の居場所とかで何かありましたら。

### ○浪瀬教育委員

ずっと話を聞いてて、一番最初に思ったのは、例えばいじめにしろ、不登校にしろ、子どものことを考えると何が要因でそういう風になったのかと一番根本のところはそこじゃないかな。で、そこを教師、あるいはスクールカウンセラー、あるいはソーシャルワーカーとか、そういった人たちとの関わりの中で、本当にその要因となることを理解すると、多くの中にあの先生方あるいは関係者がそういうこと思いながら今指導されてんじゃないかなと一生懸命ですね。それに対して僕はもう、非常に感謝するし、頑張っておられるなど言うことを思いはします。ただ、なかなか減っていかないところについてはですね、これは繰り返しですね、どうやってかしていかなきゃいけない問題だと。例えば、世の中でもあの人権問題のことはですね、減ることがないですね。で、これもやっぱりいろんな差別にしろ。いろんなことが起こってます。その縮小したもの、学校の中で行われている感じなんですけれども、そういったのをなくすということを努力については、当然、学校、それから社会もなくすという努力をですね、されてるわけでありまして、まあ、そういうのをですね。やはり継続してやっていくしかない、なくすようにですね。指導をやっていかなきゃいけないということですね、非常に感じますね。ただ、あの先ほど居場所の問題とか話が出ておりますが、あの、今度はどの場所に行ったにしろ、その例えば、子供をどう育てていくかというところはですね。それは変わらないと思います。どこであれ最終的には社会人となって自立ができる人間を作ることが大事なかなと。僕は、今でも付き合いをしますけれども小学校の低学年ぐらいからですね。問題行動が非常に多い子供で。いつ学校を抜け出すかわからないというふうな多動的な

あれを持っておりました。でも、その子供はもう 18、19 ぐらいになりますかね。今専門学校に通ってますが、もう普通の子供と変わらないような、そういう状況になってきてですね。これだと、学校でてから自立をした時にはなんでもうまくやっけていけるのかなと、なんでもうまくやっけていけるかなということは、あとは出てから周りの社会の人たちですね。いろいろ協力をしてもらいながらの協力が必要かなと思いがありますけれども。そういうのも育ってきたことも、その途中はですね、やはり多くの人たちが関わってきて、しかも我慢強く指導されてきたというようなところがあるんですね。やはりそういう手当がやっぱり必要かなとたった一人の子供なんですけれども。その一人一人の子供に対してどれだけ私たちができるかっていうことをですね、やはり考える必要があるのは。そんな思いを感じながら資料を見ております。以上になります。

### ○山田町長

ありがとうございます。よかったら、溝口委員さん。

### ○溝口教育委員

それぞれ、お話があったんで、ちょっと重複するところもいくつかあると思うんですけど、私が思う、そのいじめと不登校なんですけども、昔と今と何がやっぱり違うのかなって。私たちの頃も 1 人 2 人は不登校の家庭、家に方にこもってしまっている子供がおったですもんね、私たちの時代でも。ただ、数が圧倒的に違うのは、今の時代って昔から何が違うかってやっぱりインターネットとか、ゲーム、SNS とか、そういったのがやっぱり全然昔なかったもので今あるもの。っていうところで、やっぱりそういったスマホだったりとか、インターネットに対して向き合い方っていうのが、やっぱり親も子ももう一回しっかりと注意喚起すべきなところがあるんじゃないかなと思って、以前その佐賀県のこども未来課の職員さんとお話する機会があって、私が教育委員をしていることもあって、困ってることは無いですかっていう話をして、その不登校だったりとか、いじめとかそういった問題が結構あるっていう話をして、コロナだったりがある三年前とかに、研修、講習、そのインターネットとか、そういった扱い方についての講習やってたんですけど、コロナがあけてから、今年入ってからかな、よその市町の学校とかは、そういった講習の依頼がきているけど、江北町は来てないですよって言われて、確かに三年間、そういった話聞いてない状態だと、やっぱり子供達にゲームをする時間の決め合わせとか、そういった注意喚起ができてないんじゃないかなと思って。でも小宮指導主事とかはあの教育委員会の方にこういった講演会をしてくださいという依頼をして、で、多分今されてるのかな、昔は全校集会だったり、参観日とかの後に、体育館に集めて講師を呼んでそういった話をしてもらったのを、またちょっとやってもらえないか話をして、進めていることですね。そういったものと、あと、ある親御さんの話を聞いてると、やっぱりあのある親御さんの子供があのおちっとうちの不登校ですもんね、自分のところにあるといわれて、やっぱりいろんな話を聞いてたら、ゲームとかスマホとかやらせてるとか。親自身もですね、やっぱりスマホに熱中してるところもあると言われて。昔、その 2、3 年前かな、低学年の子どもの作文でですね。うちの町じゃないですけど、将来の夢って何になりたいかっていうので、自分はスマホになりたいっていう作文がある、youtube ではその作文が出ているので一回見られてほしいですけどもやっぱり子どもは親を見ているなという内容なんですよね。自分が話しかけても親は携帯見ながら返事をするだけで話してくれない。そんな対応に対して自分はスマホになりたい。もっと目を向けてほしい。やっぱり対応が少ないのじゃないかと。というところが、やっぱり家庭環境かなと思うところはありますね。しかもそういった話を子どもが感じている作文とかありますけどって、それを読んだらですね、深い感銘を受けられて、自分たちもこういうことしてたかもしれない、やっぱり子は親の背中を見て育つというふうにやっぱり親がしっかり正さないと子どもは曲がったことをしてしまうかなって感じを受けました。

## ○山田町長

ありがとうございます。それぞれお話を聞かせていただいてなんて言うのかな、子どもそのものっていうかな、本人だけのことだけではないとか、当然近い存在である家族、とかですね、やはりそうしたことも大きな要因だよなあっていうことを、改めて思いました。さっき言ったように、やっぱり何ていうのかな、学校のことだけじゃなくてですよ、じゃあそういう社会教育という言葉があったりですね、するようにやはりそういう何て言うんですかね、やっぱり親も含めてっていうか、やっぱりそういう働きかけっていうか、ということでやっていかないと。だってさっき言ったように、学校が担える範疇が今までより相対的に少なくなっているにもかかわらず、この学校のことだけやってたらですよ、本当にやっぱりやるべきことっていうのはずっと何て言うかな、置いたままになっていくから、やはり相対的に学校の機能と役割がやっぱり少なくなっている分、やはりその教育委員会としてとか、もっと言うなら町としてですけどね。やっぱりそれ以外のところっていうかな、ちゃんと目を向けてやらないといかんなあって思いましたね。まあ、やっぱりそういう意識はみんな持たないかんですね。もし補足あれば。

## ○田中教育委員

スマホだけではなくて、最近よく子供たちが、エナジードリンクですか、あれがちょっと問題があるんですね。すごいカフェインがたくさん入ってるのであれを飲んでしまった子ども達が興奮状態になってそのあとエネルギー切れたみたいになっているのを見ると、ちょっともうほんとよくないなって。町内でああいうの売らないようにするとか。保護者さんが多分、交代勤務の方とか、運転される方とか飲まれているんだと思うんですけど、その子どもがこい好いとうって学校に缶を集めてるんですね。その缶の匂いを嗅いで、これはいつも飲みよるみたいなこと言うから、ちょっとそういうのはあんまり良くないなあと思う。

## ○山田町長

昔のそのほら、あの「ファイト一発」とかね。その24時間戦いますか？みたいな頃のあの栄養ドリンクと今おっしゃったエナジードリンクはまったく全く別のもので、ちょっと自分の話をすると、うちの上の方、薬学部行ってるんですよ。もう卒業なんですけどね。高校、大学行ったぐらいはもうエナジードリンクばかり飲んでました。それで言んさーごと今度はもうネットで今友達とゲームができるもんだから、変な話、エナジードリンク飲んで夜中でもゲームするみたいな。でももちろんそれで友達つき合いみたいなことができたかもしれませんが、その時にやっぱりそのエナジードリンク、前回そういうこう危険性と言われてたので言ったんですけど、全然聞かないわけですよ。でも、自分が大学で勉強するじゃないですか、薬のことを。するとついこの間。いや、あんなのを今まで自分は飲んでたことを後悔してるというわけですね。だから今は飲まないで済むようになってよかったし、やっぱり薬学のことを学ぶと、絶対あんなやつは飲んじゃいけないと思うて言ったんですよ。ほほーて思うてですね。不思議なもんで親がいくら言っても聞かないんですよ。別にね、隣のおじさんじゃなかばってんが、やっぱり本当にわかると多分、なんて言うかな、しないんだなって思うし、さっき言ったように親御さんもよくわからないで、自分たちの頃のようになんかそのリゲイン飲むとかリポビタンデー飲むぐらいの感覚で、そのあーいうエナジードリンクを飲んだり、飲ませたりのものをそのまましてるっていうこともあるんじゃないかなと思います。あるいは本当にだから、もう抜け殻みたいになるらしいですね。もう強制的にそのブーストですか、みたいなことらしくてですね。だから多分ですね、そういう啓発とかですね、さっきあったようなスマホの啓発とか、多分結構やったらいいことがいろいろあるはずなんですよ。ね、だからそこをやっぱりやらんばいかんというふうに思います。

## ○溝口教育委員

知らないことはやはり専門家の人に話ばしてもらわねばですね。

## ○山田町長

そうですね。なので、だからその教育委員会なので、学校委員会じゃないので学校の事務局じゃないんで、やっぱりそれも含めたところ、別にそれはその教育委員会だけっていう意味で言ってるわけじゃなくて、ただそこをしないと、本来やるべき子どもたちの教育とか、やっぱり成長とかいうことができないからですね。だからそこが出来る、そこをやらんといかんっていうふうに思います。そいけん、ちょっとそこやっぱり今日お話しさせてもらって、いつもなんとなく考えていることが言語化できるっていうことが大事なことだというふうに思っていて、やはり学校が相対的に役割がやっぱり少なく、小さくなっている以上、そうじゃない学校じゃない、もしくは学校を前提としないですね、やっぱりいろんな取り組みとか受け皿とかいうことをやらないと、もうね、学校だけ考えておけば、なんかその我々役割を果たしているということにはなかなかならないよなあっていうふうに実際思います。これちょっとですね。実は次のことにも少し関わることだよなと思ってるんですけどね、今の話はね。ということで、とりあえずよかですか、この一番から三番は。また最後にもし全体であればですけど、良いですか。

## ○田中教育委員

ヤングケアラーの件とか。子どもさんが江北町多いんじゃないですか。で、上の子が下の子の面倒を見てるという子も結構いて、お母さんがご飯作らんから携帯しよるけん、私が作りよるとか。そういう子もいたりして、そこら辺の問題、なかなか家の中に入っていけないなあっていうので、何年か前ですけど、給食がもう唯一のご飯って言ってる子がいて、三姉妹でお姉ちゃんが作らんやったら、あの給食まで朝晩はないって、お母さんどがんしよんさーとって言ったら、お昼も働いて、夜も働きに行きよるけど、パンがある時はいいけどなかつたらお姉ちゃんが作ってくれんやたらなんもなかとか、そういうのが、何年か前に聞いて、その子たちも中学校になったんで、自分で作ってると思うんですけど、そういう問題はなかなか私たちが入っていけないところかなと思いつつ、しっかり食べんしゃいねって言って、自分たちのその生きる力を身に付けさせるしかないのかなっていうことは思ったんですね。だからあの町全体として、子どもたちにいじめの問題でも不登校の問題でも、自分で乗り越える力を身につかせないと解決はできないなあとと思います。

## ○山田町長

田中委員さんが言われたこと大事だなと思うんですが、なんとなくやっぱり、家庭がとか親がどっちかっていうと怠惰でね、子どもっていうだけじゃなくて、やっぱりやむを得ずとか、どうしてもその生活上っていう、実はそういう親御さんも厳しい環境の中でいう方もおられるということもわからないと、それは親の責任くさん、なんていうことでなんか我々責任放棄はちょっとできないなっていうふうにも今のとで思いました。今、週一回の朝ごはん屋さんをしてもらってるんですよ。で、初めてアンケートとってもらったんですよ。で、やっぱり見ると、いや、その今、田中委員さんがおっしゃったようなシビアな子は、実は来てないんですけどね。でも、やっぱり食事って大事なんだなと思ってですね。で、あれば週一回ですけど、その一回がほかの、なんて言うかな、曜日にもやっぱりこうプラスの影響をしてるし、やっぱり行くために早く起きらんばいかんというわけですよ。だからその生活リズムとかいうことにもやっぱり影響してるなと思ってですね。だから何もやらないつもりなら、いや、それはもう家庭のことや一けんてなるばってん、でも、その皆さん方が今からの江北町をしょってってもらわねばだから、だからもし心もとなかったり、このままだったら不安だったりするなら、町としても何か働きかけをしない

とですね。ひとまずよかですか。次までいきましょかね。次は部活の地域移行です。これもですね、ここ数年なりますし、こうやって色々取りだたされる前から、やっぱりその江北町の部活だけではなくて、子供たちの体育だけではなくて、いろんな活動にこう関わる機会がどうやって聞いてたらいいかなくてよなことを思ったりとか。自分もちょっと八年経ちますけど、最初の頃はあれは部活ばってん、これは部活じゃなとか、もともと部活も実は学校と同じように相対的に実はその担っている役割が少なくなって、あんまり種目を言うとなればってん、サッカーじゃなくてフットサルとか、なんかバレーも部活じゃなくて、ジュニアバレーとか、剣道は部活だけど、空手は違うとか、いろいろあってたんですよ。それとゴルフもこれだけするなら部活にしたらどうかということがあって、ここでなんか整理できたらいいなと思ってたところ、こうやって今回は部活の地域移行というのがなんか、その多忙化対策の中で、まあちょっと出てきてるのが自分、あんまりこう、正直どうかになって思いはするんですけど、ただ、大きな視点とすれば、やっぱり子どもたちのこうしたスポーツや文化活動に、関わるというか、する環境にこれからやっぱりどうやって作っていつてあげたらいいんだろうかというふうな視点で、これを考えた方がいいんじゃないかなというふうに思ってるんですよ。この間、小宮指導主事とちょっと話したら、そもそも部活動というのは、その、例えば学習指導要領とか、義務教育とかいうその学校活動として必須なんですかねっていう話からですね、そうじゃないんですよ？

#### ○小宮指導主事

しなくても大丈夫です。

#### ○山田町長

ということですよ。ということであればですよ、やはりそのさっき地域移行の例えばですね、これはすごいなと思ったのは、その附属中学校なんていうか、ここは逆に地元で市町村立じゃないんですよ。もう25年から社会体育に移行するとかしちゃでしょ。で、これは私とってもすごいなと思ったんです。逆にこういう学校というか、その地元の市町村立じゃないからこそ、やはりこういう少し先のことを見据えてやってやるんじゃないかなと思って。で、今、流れはですね、とにかくの休日の移行からまずしましよっていう話になってるんですけど、多分休日だけじゃおそらくダメじゃないかなっていうふうに思ってるんですよ。で、じゃあ、なんで休日だけになってるかって、平日はしにくい、たぶん。指導者の方がですよ、子供たちが4時ぐらいから部活を始めるために、きゅーてちゃ仕事しよーぎんちゃ4時には行かれんしですしね。たぶん端的そこにいる学校の先生がしてくんさらんかぎりダメなんで、手近なところからたぶん休日移行っていう話になってるんだろうと思うんですけど。やっぱりそれじゃあ多分、仮に休日移行しても次はないんじゃないかと思ってですね。なので、この間、教育委員会の事務局と話をさせてもらった時には、もうその国がですよ、休日移行とか言いようけん休日とかじゃなくて、まさにこの佐大附属中学校のように、これからの子供たちのある意味、学びというかな、体験っていうか、活動の場を町として、やっぱりどうやって用意してあげるのかっていう観点でやっぱりやったほうがいいんじゃないかっていうことをこの間実は申し上げたんですよ。で、そうすることによって実は今ある部活と言われている部活よりも、もっといろんな活動に従事ができたりすると思うし、で、そのためにはですね、たぶん今で言うと、うちのスポーツ協会、体育協会ですね。これ実は子供たちのところは入ってないことになってるんですけどね。体育協会とか文化協会とか、また今放課後子ども教室かな、そういうことも含めての町としての仕組みをやっぱり作っていく中で、このうち部活の地域移行というのを捉えないと、やっぱりそのスタートがなんか、教員のそのなんとか多忙化対策とかじゃなくて、ですね、子供達にとってどういう場を提供できるかということをやったり考えてほしいということで、この間言ったばかりというか、言ったところなんですよ。で、もしかすると、誰と話したかな、その時に今多分週12、3時

間、部活の時間が、ぐらいなんですよね。なので、もしかすると平日はなくてですよ、土日に、やれば多分時間だけでいけば、施設の問題とかあると思いますけど、できなくはないよねと、ですね。たぶん、そうせんと仮にそういうスポーツ協会とかが担ったとしても、誰か教えてくれる人が居ないと平日どっちにしろできないわけだからですね。で、今幸い、例えば、競技種目でいけば中体連とかなんとかも、必ずしも部活っていうことじゃなくても出れるようになったりしてるから、やっぱり今は何ていうかな、そういうのも見直し時なんじゃないかなと思ってですね。ていう風に自分は問題意識をもってます。なので、もうあまりその国の方針が休日、だからといって、休日移行のためにうちまだ準備できてないですからね。検討を始めようと思いますぐらいなものですから。それだったら、どんな形でやろうとしてあるのかなとか、そこは少し調べる価値があるような気がしますけどね。それと、もういっちょ言えばですね。私立の中学校はどがんしてるのでしょうか。私立の中学校も部活はあると思うんですけど、どんなしてるのでしょうか。例えば、ほら、幼稚園なんかは、木下スポーツなんかとかか言って、そういうスポーツのインストラクター派遣会社みたいなやつがあったりして、子ども達に月曜日はサッカー教えにきんさーで、火曜日はなんか、水曜スイミングとか。実はいろんなまあそういう民間、あの実業があったりするし、まあ、江北町でいえば、わざわざそうしなくてもあの教えてくれる人がいるけど、そのやっぱり時間のマッチングとかですよ、それともう一つ、今度、地域移行とかいう話になーぎん、その例えば指導者に払うお金は誰が払うんですかね？とかですよ。さっきの学校の活動の中でとらえなければですね、誰が雇うんですかね、とかですね、実はそんなことも関係する、だから実は地域移行でまあ簡単じゃないけどやればいいかんし、やっぱりそういうことをきちんと交通整理してやらないとですね、ダメだなというふうに思います。よく江北町スポーツの町とか言うなら、なおの事ですね。やっぱりほかに先駆けて本当はそうした地域移行のというかですね、さっきあった部活の社会教育化だと思いますけどね、たぶん。ていうことのほうが、自分のイメージはスッキリします。部活の地域移行というよりは。社会教育移行と言うかですね。そんなイメージを持ってるんですけど。まあ、それぞれスポーツ携わっておられる方もおられますし、よかったら、少しご意見を。また同じ順番でいいですか？

## ○田中教育委員

私も陸上にちょっと関わっているんですけど、江北町は小中今度一緒になろうかとしてるので、小学校と中学校と一緒に陸上をどうかなって考えたときに、陸上は球技と違って、その個人個人の能力に応じて、練習量変えたりとか、そういうことができると思うんですけど、指導者のことですね。今、監督としてやられてる百武さんがもう75歳オーバーで、後をどうしようと悩まれてる。そういう指導者の問題が今ちょっとあるかなと考えています。で、欲を言えば、その県の方にアスリートリンクっていうちゃんとした陸上クラブを立ち上げて若い方がやられて、それを本業としてされてる方がいらっしゃいますけど、そういう形でやればいいんですけど、部活動をこういうところにおまかせするのか、それかもう江北町内での、いろんなクラブを一つ大きな総合型スポーツクラブにね、うん、そういう形にしても、指導者ですね、バスケットとかバレーとか、町内に指導者がいらっしゃるところはいいんですけど、指導者問題が今一番の課題かなと思います。で、それとあと、もしそうなったときに、その報酬ってさっき言われましたけど、その報酬を払うとなると、その子ども達からお金をもらって、集めるみたいな形でするってなると、今度お金を払える子ばかりじゃなくて、もしかして払えない子がいるかもしれない。そういう問題があると思うので、そこら辺をよく考えながらこうしていただかないといけなきゃいけないかなと思うんですけど、私たちのその陸上部はそんなに費用がかからないので、そこら辺はいいと思うんですけど、全体としてその総合型にするとなるともう均等にどういうふうにお金を集めるとか、そういう風にするのかっていうのが今からの課題かなと思って。私たちも一生懸命関わろうとは思っているんですけど、どこまで出来るかなあと、後継者をですね。どういうふうに作っていくかっていうのが、今から私たちの課

題と思っています。いつまでも私も若くないです。

#### ○山田町長

ありがとうございます。重松委員さん部活の地域移行で何かありますか？

#### ○重松教育委員

教育委員会みんなで視察に行ってきたんですけど、ああいう形で組織として江北町でできる。競技とか形を作っていくことが、あの先ほどゴルフとか空手とかおっしゃったように、そういうところで活躍できている子たちのことを考えると。なんかこう、部活からそのまま移行できる種目と、社会体育から足してできるような形で、組織として運営できる形に持っていける方が一番いいのかなと言う感じで今思っております。

#### ○山田町長

ありがとうございます。浪瀬委員さんどうですか？

#### ○浪瀬教育委員

全然その先が見えないっていう感じがするんですね。社会体育に移行した場合、はたして、どういう風な形での社会体育の形になるのかというのがですね。色々と新聞とかなんか見ても、まだ一番最初だけちょこちょこっと出したような感じで、その先というのがですね、見えない感じがするんですね。例えば、一つの競技をする場合に、その競技を指導する人の立場からすれば、どういったレベルで指導をしていくのか、あるいは子どもたちの方からすれば、その楽しみ方のそのレベル、僕もいつも言うんですけど、人それぞれその楽しみ方のレベルがあって、トップのところの楽しみ方、あるいはもう、中間ぐらいで、その下にまあ気晴らし程度というようなですね、それぞれレベルがあると思うんですけど、それを一緒にたんにして果たして指導ができるのかというね。そういう指導者の方からの問題とかですね。そういったところがあったりですね、移った場合はなかなか難しいかなと。田中委員さんが言われたように、また指導者養成とかそういったものですね、以前スポーツ庁がなんか指導者養成しなきゃいけないようなですね、そういう話も出てましたが、その指導者の養成については、各競技団体があの資格制度をもっていて、その資格を取ってですね、その指導資格をとると言いますが、でもそれに対してもですね、その人の指導者の人間性とかそういったものですね、考えていかなきゃいけないなど。ただ単にあの資格を持ってるから渡されるということではないでしょうし、そういった指導者の問題もですね、主にあるし。それから社会体育の施設の問題ですね。そういったもの、考えていかなきゃいけない。同じところで、いろんなスポーツを同じ時間帯でやるのは非常に難しいので、そのズレを出しながらですね、苦労しながらやっていかなきゃいけない。いろんな問題をですね、きちっと見通しができたところで移行するというようなことで、例えば平日じゃなくて土日の休みの時を変更しようというような、はたして考え方でいいのかどうか。極端に言えばですね、ヨーロッパ的なあのスポーツクラブですかね。あーいった風に移行したほうが一番いいのではないかな。だから僕は佐大の附属中も思い切ったことやったなと思いはしてるんですね。なんか学校で部活動しないですね、社会のそのいわゆる各クラブチームがなんかあれば、という風にそうなると、その学校としてはその子供たちが、さきほど田中委員さんも言われましたが、そのクラブに行って、そのクラブに入らなきゃいけないお金がないと。というような問題が出てくるでしょうし、果たしてそのことについて、江北町の場合は、それに対する助成ができるかどうかですね。そういうことも考えられるなあというふうに思います。自分はサッカーやってたから、サッカー役をやってた中においてはですね、やっぱり極端に言えばですね、学校では授業するところだと。そしたらもう午後からはもうク

ラブに行って、そして自分のやりたいことをやるというような形ができればですね、それが一番いいのかなという思いをしながらやってきましたけど。日本独自のやり方がやっぱりあるでしょうし、なかなか難しいかなというふうに思いもしています。

### ○山田町長

はい、ありがとうございます。さっき言われたように実は附属中がというところがですね、多分いろんな要素があるんだと思います。ていうのは当然、そのほら、附属中で学校からですよ、部活をなくすちゅーぎん、そのなくしたとば、どこが受け取るかって言うと、例えば町だとですね、学校の部活からやめるっていうぎん、それは教育委員会は考えんばらん、けど附属中だからですよ、学校がもう移行しようにも移行する先が多分もともとないからですね。多分社会体育化って言って、その社会体育化した、するのは誰が面倒みるのかと思うんですね、附属中だからですね。ていうようなことをちょっと思ったので、実はここには結構いろんなさっき言んかった重い一言、でも、これぐらい打ち出さんとなかなかできなかったんだと思いますけど、だから物凄く注目してるんですよ。どんなことがここはいろいろ考えてあるのかなと思ってですね。まあ、がん言うちゃ悪かばってん、付属中学校がでくっない、ほかのともでくっやろうっていうぐらいのことですよ、多分ね。だって、ちゃんと教育委員会があるわけですから。て思いました。それとさっき、田中委員さんも言われたごと、同じスポーツしよっけんがですよ、がん言うちゃ悪かばってん、ちょっとなんかゴルフはけっこう教えたがりの人、多かですもんね。でも同じスポーツしよっけんがていうて、自分は楽しむためにしよーばってんが、教ゆっとまですつつもりなかばんて言う人もいるから、そのさっきあった一つあるのは、やっぱりスポーツ協会とか文化協会の下部組織のごとしてするっていうのはあるのかなと思ったんですけど、でもそれにしてもわがどんはまあ楽しみはするとばってん、教えまではって言う人も居るし、それ結局、誰かその中で教える人がいないとダメじゃないですかね。だから、そう型どおりにはいかんては思います。なので、そこをどうするかっていうことを考えらんと、さっきそのアスリートリンクですかね。で、実際、今もかつてのようですよ、毎日部活のなからんばいかんとか、それはもう町単位で、もしくは学校でせんばらんっていう意識はちょっと除いて考えんばらんとやなかかなっていうふうに思うんです。ほら、あの小宮先生、すみません。部活は今何個あるって言われたですかね。

### ○小宮指導主事

11か12です。

### ○山田町長

12しかないんですよ。逆に言うと、だからこの12をどうにかするって議論じゃなくてですよ、これも含めたところで、やっぱり子どもたちのそういう文化スポーツにこう関わる場をどがんするかっていうふうにして考えていったほうがいいし、それは必ずしもその町の協会っていうことだけじゃなくて、さっきあったごと、すでにほかの学校と一緒にやったりしてる場所もあるわけですから、なので、実は部活の移行もさっきのフリースクールやなかばってん、居場所と少し似てる場所があるんですけどね。やっぱり、どういう、そのやり方があるよっていうことだと思し、今の文化協会なんかは年度初めにあの講座一覧みたいなやつが配られますよね。参加しませんか？みたいな。だから、あれは当然、町内の人たちではあるんですけど、なんかやっぱり子供たちがいろんなものにこう関心持って、ていう事の方の視点でやっぱり考えていかないと11はどがんじゃいすっていうだけだったらすよ、本当に学校の先生の多忙化対策でねっていうだけで終わってしまうからですね。さっき言ったことごと、もう部活かどうか関係なく、中体連に出てたりするし。だからやっぱそういうなんていうか、大きな視点でいうかな、て考え



て、やっぱりかんちゃんかかなと思うんですよね。だから、自分はある程度休日移行とか、まず休日だけ移行とか、部活のっていうことじゃなくて、どちらかという社会教育化とか、やっぱり子どもももっと言うなら、居場所とか活動の場とか、いうことを考えればかなと思います。で、この関係でいくと、ひとり親家庭のもう何年かかな、三年、四年目かな。教育長も先生してもらってますけど、やっぱりずっと部活をして、その中体連が終わって、その学習支援に来られるんですけど、結構な感じでもうちょっとこの三年間ぐらい、やっぱりそのずっとその基礎学力とかできてなくて、もういざ中体連終わって部活の終わったけんがていうて、こられて。で、どこどこを受けたて言うても正直、なかなかこう手の施しようがない子もいるんですよ。で、今年度はいま水曜日の部活休みですか？ そうなので、今まで月曜日にしてたのを水曜日に変えてもらって、そうすると中三だけじゃなくて、今中学一年生や二年生も去年よりは増えましたですね、来るようになって。で、やっぱりもう中三ギリギリになってよりは、やっぱり、中一、中二のところできちんと、やっぱり学校でね教えて貰ったことが身につくようにせんばいかなと思ってるんですけど、そういうことも含めて、今日は学力の話は何もしませんでしたけどね、やっぱりそのずっと、とにかく部活っていうことだけじゃなくてですよ。やっぱりそういう学力向上とかいうことも、今後は教育委員会で考えていただいて、毎日部活とか週一回休みぐらいじゃなくて、ですね、ということも。たぶん、本当は考えんといかんとやなかかなっていうふうに思います。なのでえっと、これもちょっと、うちも後発なんですよ。部活の地域移行も。なんで逆にそこはしっかりなんて言うかな、こんな形でっていうのが、やっぱりそれをなんか検討委員会もいいんですけどね。やっぱり教育委員会として、今日もさっき言った問題がここで何とか言ったことを整理してから委員会をせんと、結局、なかなか言いたい放題難しいよね、てみんなしみじみして帰るみたいなことで、時間をもったいないんで。なんかそういう委員会を開くということで、なんか本当はだって我々仕事でやってるのに、それを放棄するようなことではいかんと思ってる。さっき言ったようなことに自分は思っています。だから、部活の地域移行ということについては、ということで、とりあえず、すみませんね。一時間半の予定やったですね。ちょっと一番から四番までの議題でありまして、なかなか一時間半じゃすまない問題なんですけど。

#### ○溝口教育委員

ちょっと重複するかもしれないですけど、まあ、あの今の社会体育も町内各種団体であったりとか、まあ文化系のところとかもあるので、今その謝金とかそういったのって発生してるんですか？

#### ○山田町長

部活のですか？社会体育で？例えば陸上とか？部活の外部コーチとして入っているところには、たぶん謝金とかでてるじゃないですか。

#### ○小宮指導主事

今、中学校の外部コーチはもうボランティアです。

#### ○溝口教育委員

ボランティアですね。まあ、そういうのも含めての学校の先生も今、その時にその給料が発生してるわけでもないそうですよね。

#### ○小宮指導主事

部活動平日の放課後は発生しないんですけど、土日に関しては一部。

### ○溝口教育委員

そうですね。なので、どっかでもうやるんだったら区切りつけても教師は教えないでくださいねで、外部から入れるっていう感じが無いと外部コーチには謝金があって、教師にはないんですかっていうのは、同時には絶対できないと思うんで、どこかで区切り作って、やっぱり組織委員会とかを作って組織化して、指導者の更新とかも確かにそうですよね、で、体罰とかそういったものもあつたらいけないので、そういったものもしっかり教えないといかんし、その教える側自体もたぶん、なんか資格があつたほうがいいんじゃないかなと思いますよね。運営するにあたってやっぱり町からの財源をちょっと助成してもらような形をとらんと運営できないんじゃないかと思いますね。

### ○山田町長

やっぱりきちんと教えてね、なんか頂いてるからありがたいんですけどね。そうばかりじゃなくなる時がちょっとね。教えたい人が教えるのが上手で教えるのにふさわしいかどうかっていうのがまたちょっとね。今おっしゃったように、だからやっぱりきちんとその大きな方針を示して、課題っていうのは、その聞いて集めるじゃなくて、我々大体わかると思うんで、そこをクリアするようにせんばいかんとやろうなと思って。繰り返しますが、これは結構衝撃やつたです。これはやっぱりね、よう思い切つてしよういやーなと思って、それぐらい危機感もあるんだろうなと。ありがとうございます。

### ○田中教育委員

大学の生徒さんたちが教えたりするから、教える人は確保できるんじゃないかなと。

### ○山田町長

うん、記事でも軟式野球は同大の教員や学生が指導したり、すべてほかの活動でも同様の連携が進められないか検討する。まあ、だからそうですね。

### ○田中教育委員

佐大があるからできたかなっていう。

### ○山田町長

そういう意味じゃここは教育学部付属だからですよ、君たちとこれも教育学部の、ああね、あれの一つだよって。言うて、させるっていうぎいかんばつてん。でも皮肉なことにですよ。今からでも君たちが先生になったころには、もう部活は学校にはないけどね、ハハハて感じじゃないですか？いや、よく考えたらね。どうぞ君たちが先生になったら部活の指導せんといかんのだからって言うなら、大学の教育学部の学生にさせてあげてもいいばつてんが、もう今は地域移行しゅーでしよーとやっけん、逆に言うと、教育学部でもそんなことも考える必要なくなるわけですね。悲観的にその移行だけ考えれば、なんというかな協力してもらおうというのはあるかもしれないですけど。

### ○田中教育委員

教えるっていうことに関してはやっぱり経験があつたほうがいい。

### ○山田町長

そうそうそう。部活の指導として、その子どもたちと関わる、教えるっていうことを学ぶチャンスだよって言い方はあるかもしれないですね。

### ○田中教育委員

凄い大事ですよ。いいところも悪いところもですね。勉強ができなくても運動が得意な子はもう本当に生き生きとしてやってるし。なんか中学校の運動会のリレーがないって言って足の早い子はチンてなっていました。

### ○山田町長

少しだけ携わらせてもらって感じます、本当に。子どもと接するのっていうのは、ある意味難しいよなーと思って。はい、その朝ごはん屋さんと勉強のと両方こう見たりしてるとですね。もし総括的に何かないですか。なかったら、教育長の方から。

### ○吉田教育長

今日4項目ありましたけど、私自身はいじめはですね、一件でもあるとやっぱり早めに対応しないといけないなと言う風感じていたもんですから。町長がああ新聞のコメントに対してですね。数が増えたのは、やっぱり見方が非常にこう、細かくなってきたからだっていうふうな評価は果たしてっていうことをおっしゃったので、私と違った感覚だなというふうに、思ってお話聞きました。で、今日の中でも出てたように、やはり令和二年度の場合も覚知と認知の違いをもう少し分析してほしいということですね。これはやはりそうだなというふうに思って認識したところでございます。で、いろんな多様な子供たちが今出てきてるなという中で、子供たちは気づけて気づけばですね、自分でやろうとすれば、すごい力を発揮するんだなーっていうのは私も感じております。そういう意味でやはり浪瀬委員さんからお話があったように、粘り強く接して行くということと、それからやっぱりいろんな人の支えをして行かないと行けないなというのが改めて確認ができたんじゃないかなと思いますし、重松委員さんからは場の設定とか、あるいは溝口委員さんからまたPTAなり、児童生徒への専門家からのですね、課題に対する講演とかも計画ができるんじゃないかなというところ。そしてまた具体的に田中委員さんからいろんな子供たちの実態を見ながらですね、方向性とか、いろんなご意見をいただいたので、また事務局としてもしっかりと踏まえて考えていきたいなというふうに思っております。本当に今日はあの教育委員さんにおかれましては2時からの会議の後ということで3時間近くなりますけれども、本当にありがとうございました。以上でございます。

### ○山田町長

ありがとうございました。教育長に総括していただきましたけど、なんて言うのかな、うん。教員委員さん方とは日常的にいろいろお話をさせてもらってますけど、今回のようにやっぱりテーマを決めてですね、お話を聞かせていただきたいと言うのは、なかなかないもんですから。今日そういう意味でよかったなと思いますし、自分も自分なりの考え方っていうか、問題意識っていうのがあるもんですから。それお伝えできたのは良かったんじゃないかなというふうに思います。この間、安全、安心係であの避難所のベッドとかの設営を子どもたちがしたんですよ。あれって結構大事だなと思ったんですよ。やっぱり災害の時も、どうしてもその歳の上の人たちは、今まで大丈夫やったとやーけんて言うて、自分たちの経験が邪魔をする、知識がね。でもやっぱり子ども達はピュアにそういうのに反応して、いや、もう避難せろて言いよんさーとけなし避難しないのかとか、だから、そういう意味でも、実は子どもたちが、そういう、これからの町の変化をやっぱり引っ張っていくという側面も実はあるよなーと思って、直接子ども達に会うことをしてもらったのが大変ありがたかったなというふうに思いますし、なんかそういう意味じゃ、長く生きてますけどね。実は我々じゃしきれないところも子ども達があったりするのかなと思ったり。とに

かくもうひたすらにやっぱり子ども達にとって、ていうことをまた一緒に考えたらいいなというふうに思います。すごいですね。ぴしゃり17時までっという感じで予定どおりの時間で終わりたいと思います。

○事務局：総務政策課（山中課長）

本日はお忙しい中、長時間にわたってですけど、教育会議にご出席いただきまして、本当にありがとうございました。ちょっと衝撃的な情報をですね。まあ、今日聞かせていただいて、ご意見もいろいろですね、教育委員さんの方から出てきたと思っています。で、町と教育委員会とですね、同じ方向を見てってというようなことで、この会議の目的になっておりますので、今後もですね、教育行政の方にこのご意見をですね、反映させるようなことで、教育委員会ともですね、進めていければと思っています。本当皆さんありがとうございました。今後ともですね、よろしく願いいたします。お疲れさまでした、ありがとうございました。

い。

午後5時00分 閉会

---